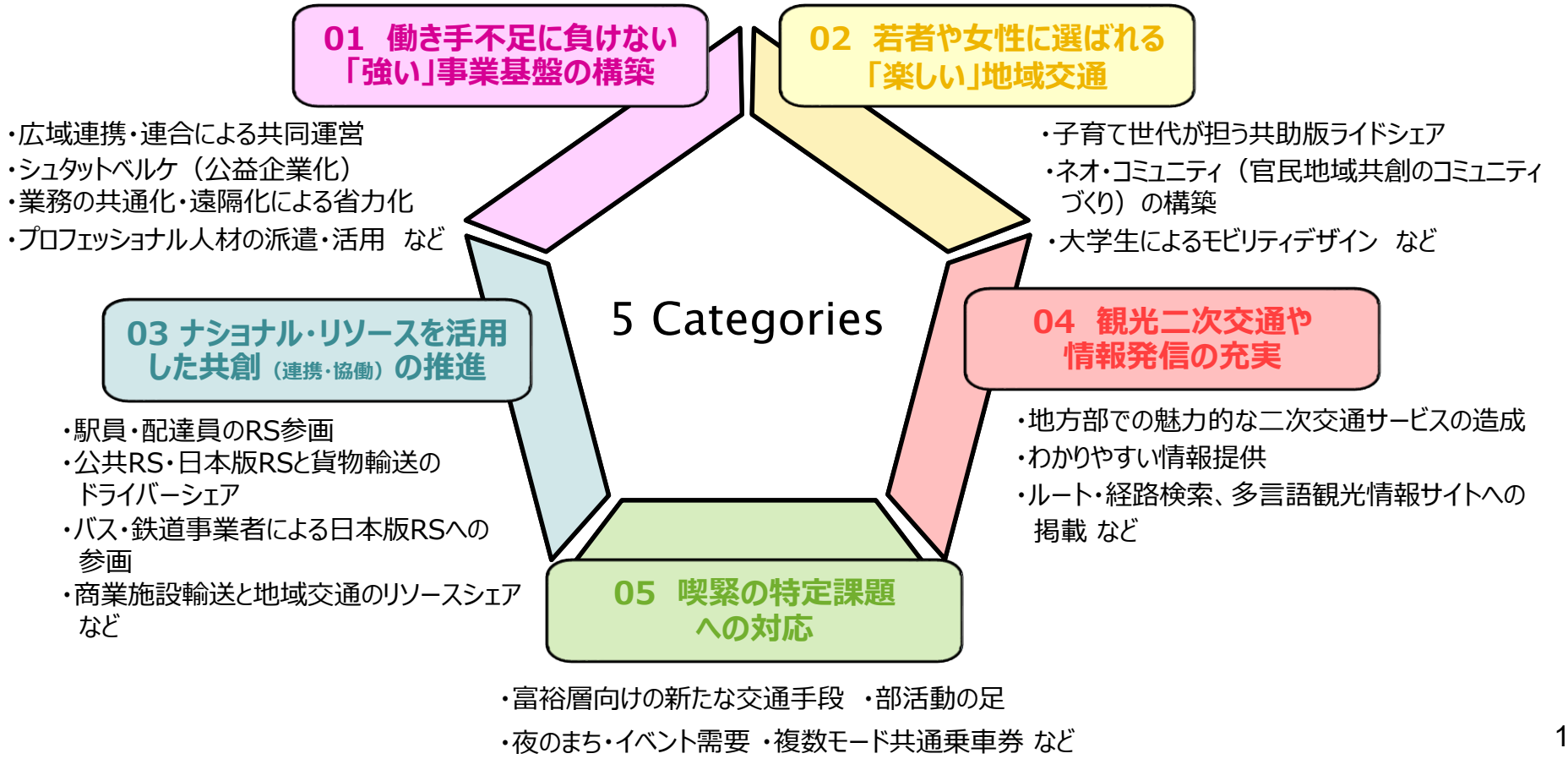
「交通空白」解消に向けたパイロット・プロジェクトの展開

MLIT

○加速する人口減少・働き手不足の下において、地方創生の基盤である地域交通を守るため、従来の発想を超える**持続可能な地域交通の「新しいカタチ」を官民で創出**する。
○「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム（会員数：１０２４）のもと、**2030年頃を見据え、全国展開・実装が期待される新しい仕組み（運営、技術・サービス、システム、人材等）の構築**に取り組む。
○**令和7年度は、以下の５分野を重点テーマに、計20件程度の実証事業（順次公表）**を展開し、「『交通空白』解消本部」（本部長：中野国土交通大臣）が本年5月頃に定める今後３年間の「取組方針」のもと、各事業の課題や成果を広く共有しながら、全国展開への道筋をつける。



Title

03 ナショナル・リソースを活用した共創（連携・協働）の推進

ヘルスケアMaaSの社会実装プロジェクト

Area R7年度 実証地域

徳島県徳島市

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など

事業主体

富士通（株）

システム構築

徳島県タクシー協会

運行

連携

徳島県

関係者との連携調整

徳島県立中央病院

フィールド提供
実験モニター協力

Background プロジェクト実施の背景

地域交通における主要な目的地である病院への移動手段として、特に地方部ではデマンドバスの利用が進んでいる。他方、病院では診察終了時刻の予測が難しいため、往路予約時に復路の予約ができず、帰りの足の確保が難しいことが外出の課題となっている。

Outline プロジェクト概要

病院予約システムと連携した「離院時間」の予測を行うことで、診察予約時に往路に加えて復路の配車予約を自動的に行うデマンドバスサービスを開発する。

Effect 想定される効果

病院復路の配車予約を可能とすることで、高齢者等の外出への課題を解消。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

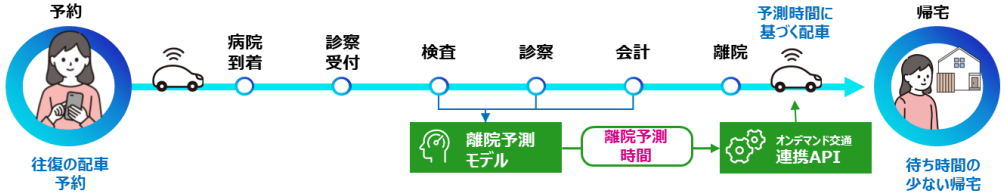
有用性検証を経て他地域への横展開を推進。

ヘルスケアMaaSの社会実装プロジェクト

診察予約・診察状況と連動した自動配車予約により、デマンド交通サービスの利便性の向上を可能とするサービスを構築・普及

プロジェクトイメージ

- 病院からの帰りのデマンド交通の予約は、診察時間が読めないことや、デマンド交通の車両台数が限られているため、直前に予約しても長時間の待ち時間や予約不可が発生し、復路の移動の足が確保できていない状況。
- そこで、病院予約システムと連携し、患者情報を活用した利用者の離院時間を予測する予測モデルを開発。これとデマンドバスシステムを連携させることで、診療予約時に自動的に往路・復路のデマンドバス配車を行うサービスを実現する。
- これにより、従来難しかった、病院の「復路」の配車予約を可能とし、高齢者等の外出へのペインを解消。外出機会の創出を図る。



Title

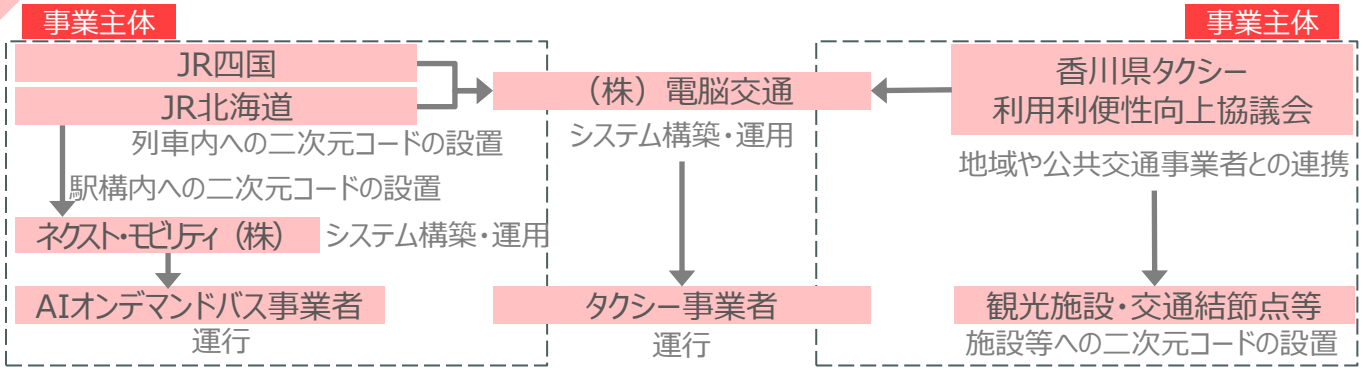
04 観光二次交通や情報発信の充実

観光地におけるタクシーへのアクセス改善プロジェクト

Area R7年度 実証地域

香川県・愛媛県
（予讃線等）
北海道名寄市・稚内市
（宗谷本線）

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

特急停車駅をはじめとする地域の交通結節点や観光施設等において、二次交通であるタクシーへのアクセスに課題があり、旅行客などの「観光の足」確保が必要となっている。

Outline プロジェクト概要

二次元コードを特急列車、高速バス、旅客船の内部に設置し、到着に合わせたタクシーやAIオンデマンドバスの配車を可能とするサービスを提供。
あわせて、観光施設や観光施設近隣の交通結節点等に二次元コードを設置し、簡易にタクシー配車を依頼するサービスを提供。

Effect 想定される効果

一次交通から二次交通/観光地間のスムーズな移動が可能になり、「観光の足」を確保。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

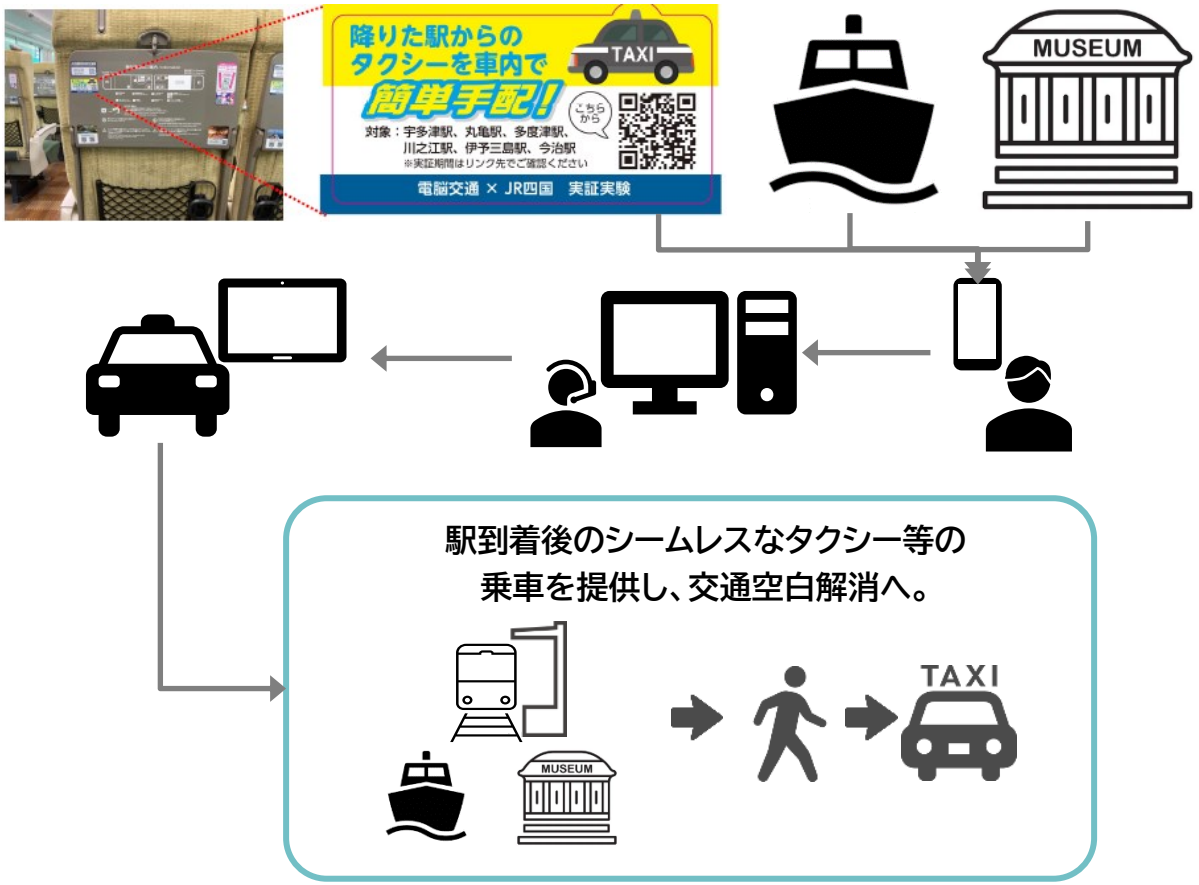
有用性検証の結果を公表し、他地域への横展開を推進。

観光地におけるタクシーへのアクセス改善プロジェクト

主要交通結節点におけるタクシーやAIオンデマンドバスへの円滑な乗り継ぎを可能とする連携システムの構築・普及。

- タクシー等の二次交通の供給不足で、交通結節点や観光地にタクシー等がない状況が発生し、「観光の足」確保の課題となっている。
- このため、特急列車内や観光施設等に二次元コードを設置し、到着時刻や観光施設の所在地をタクシー事業者に自動連携するサービスを提供することで、利用者がスマートフォンから簡易にタクシー配車可能とする。
- タクシー事業者にとっても、公共交通利用者からの事前予約により、利用確度の高い予約となり、生産性向上に繋がる。
- 本取組みは比較的安価・軽量に開発することが可能であり、他の鉄道駅を含む交通結節点への横展開が期待できる。

プロジェクトイメージ



※R7年度日本版MaaS推進支援事業で採択

Title

04 観光二次交通や情報発信の充実

空港から観光地への接続強化

Area R7年度 実証地域

北海道旭川市、東神楽町等（旭川空港周辺エリア）

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など

事業主体

みずほ銀行、北海道エアポート、JAL、ANA、JJP、ADO、旭川電気軌道、道北バス、旭川市、東神楽町、旭川商工会議所、旭川コンベンション協会、北海道上川総合振興局、北海道商工会議所連合会、北海道大学

全体統括、事務局

みずほR&T 実証推進、データ収集・分析

- 北海道大学：各種調査
- ジョルダン(株)：システム提供・改良
- 旭川電気軌道、道北バス：運行

Background プロジェクト実施の背景

地方部における空港からの観光地等へのアクセスにおいて、航空の運航状況と二次交通（バス・タクシー等）の連携が取れておらず、乗り継ぎができないなど、観光客等の「観光の足」確保が課題となっている。

Outline プロジェクト概要

航空の運航状況に応じた空港発路線バスの発着時間調整やタクシー手配を実現。

Effect 想定される効果

顧客データの収集・連携・分析により、公共交通の路線再編・効率化や交通施策検討に寄与。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

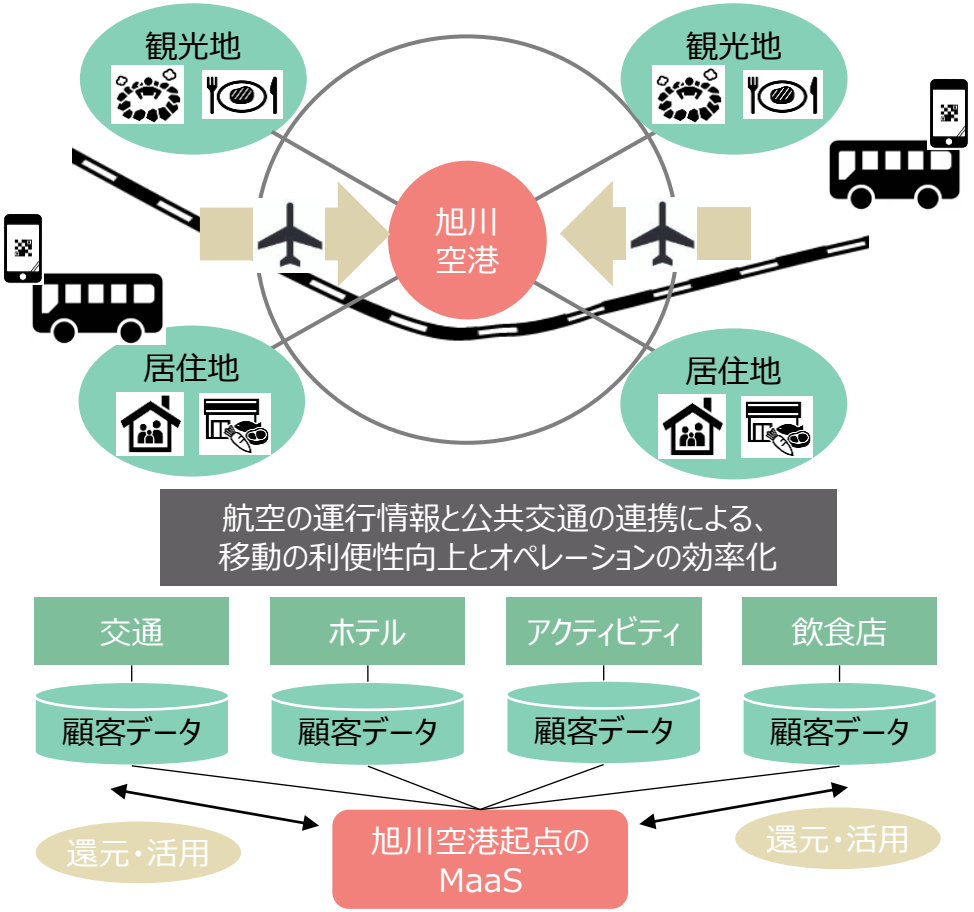
有用性検証の結果を公表し、他地域への横展開を推進。

空港から観光地への接続強化

旭川空港を起点としたMaaSの社会実装を通じて、リアルタイムの航空の運行情報と公共交通の連携による、移動の利便性向上やオペレーションの効率化を図る。

プロジェクトイメージ

- 地方部における空港から市街地や観光地へのアクセスでは、バス路線が重要な役割を占めているが、バスの便数が足りなかったり、航空便の遅れ情報等が連携されない場合には、乗継ができず、観光客等の「観光の足」確保が難しくなるケースがある。
- このため、旭川空港を起点とするMaaSの導入により、航空とバスの運行情報を連携。事業者間で航空機の客数情報や遅れ情報を共有することで、バス発車時間の調整を可能とし、航空便が遅れている場合にも確実な乗継を実現。



Title

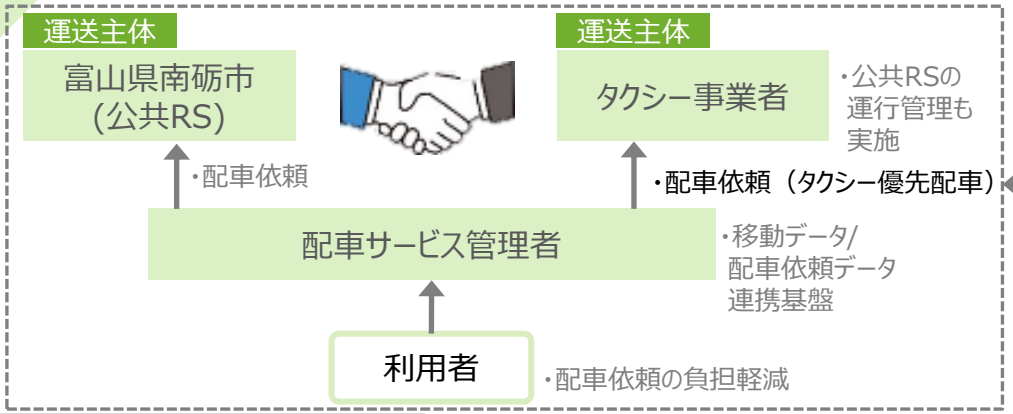
05 喫緊の特定課題への対応

タクシーと公共ライドシェアの共同運営

Area R7年度 実証地域

富山県南砺市
石川県小松市

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

地域にタクシー事業者が存在するものの、ドライバー不足等を背景に夜間等の営業を終了。また、病院の開診時間やスーパーの開店時間など一時的に需要が高まる時間帯において、タクシー車両の配車が困難となっている。

Outline プロジェクト概要

タクシーが提供されている地域及び時間帯においても、タクシー車両の配車が困難な場合に、公共ライドシェア車両を配車する仕組みにより、移動サービスの提供機会を増加させ、住民等が希望するタイミングで移動できる環境を構築する。

Effect 想定される効果

利用者の利便性の向上、タクシーの補完による地域交通の持続可能性の確保。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

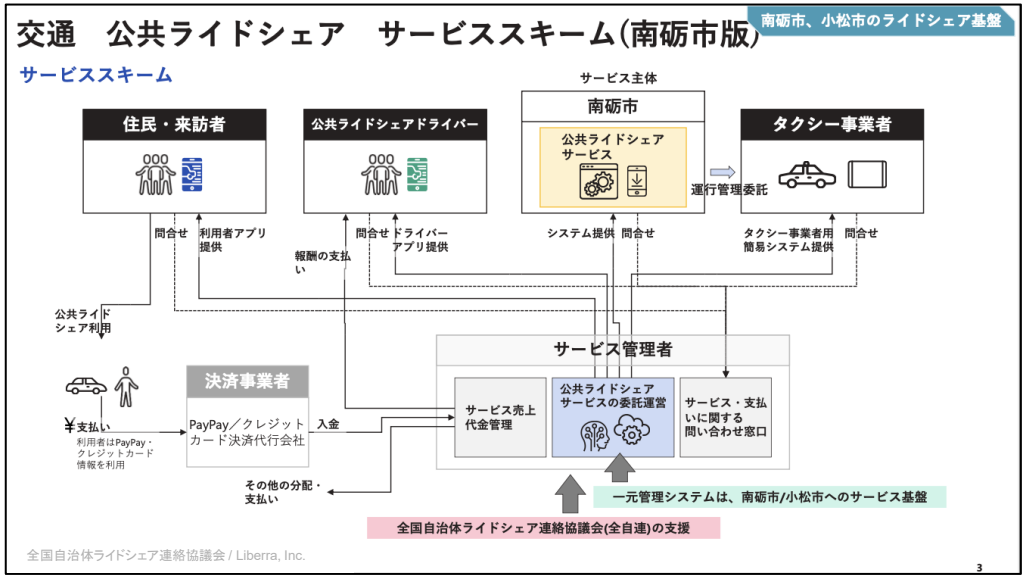
タクシーと公共RSの共同運営の仕組みを全国に横展開することにより、地域の移動環境の改善を推進。

タクシーと公共ライドシェアの共同運営

タクシーと公共ライドシェアの連携を通じて、移動サービスの供給を増加させ、利用者の利便性向上にくわえ、タクシーの補完による地域交通の持続可能性の確保を図る。

プロジェクトイメージ

- 地方部においては、運転手不足等から、需要がある地域や時間帯においてもタクシーの供給を増やすことが難しく、地域住民等の「移動の足」や「観光の足」の確保が難しくなるケースがある。
- このため、タクシーの配車が困難で利用者のリクエストに応えられない場合に、公共ライドシェアの配車を可能とすることで、移動サービスの供給増加となり、「移動の足」や「観光の足」の確保につながる。



上:「一元管理システム」活用スキーム(国土交通省「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム第2回(令和7年3月19日)全自連発表資料3頁),
下:出発式の様子(令和7年3月24日)